



—— これからも、期待しています ——

吉 川 正 也
(在任期間 平成 24 年 4 月～30 年 3 月)

1 子どもの真の味方として

札幌市子どもアシストセンター（以下、アシストセンターといいます。）が設立されて、10 年が経過しました。この間、たくさんの子どもの声を聴き取り、子どもの立場で相談を受け、子どものために良い解決を目指した活動が行われてきました。

私はアシストセンター 4 年目から 6 年間、救済委員を務めさせて頂きました。アシストセンターは、いつも、熱心に相談に応じる相談員の方々、調整活動に労を惜しまない調査員の方々、そして、全体としての活動を調整している事務局の職員の方々が出て、この 10 年間、信頼されるアシストセンターの活動が行われてきたものと思います。

札幌市のように人口約 200 万の都市でアシストセンターがあり、子どもにとって身近に感じられる活動が行われていることは、どこの市町村でも行われている活動ではありません。札幌市が他の市町村に対して誇れる大きな施策の一つだと思います。

これからも、子どもにとって身近な存在で、信頼されるアシストセンターであり続けて欲しいと思います。

ところで、子どもを取り巻く環境は、決して良好であるとはいえないと感じます。少子化社会を迎えて、一人ひとりの子どもに対して大きな期待が寄せられるわけですが、それが子どもにとってもプレッシャーとなったり、子どもの自ら望む生き方ではないなど、子ども達が生きづらい状況があると思います。

また、子どもの貧困の問題に象徴されるように、一部の子どもではあっても、他の子に比べると十分な養育や教育を受けられない現実が存在しています。このことも子ども達にとって、生きていくことが厳しい状況となっています。

こうした子ども達をとりまく状況を考えると、子どものことを一番大切に考えることを明確にし、子どものことを中心に考えてくれるアシストセンターは、子どもたちにとって、真の味方として位置づけられます。

アシストセンターで行っている相談活動と、相手方との間に入って行われる調整活動は、子どもの権利救済を実現していくうえで、これからも最も大切にしていけるものであると思います。

2 メール相談と電話相談を発展させていくこと

アシストセンターでは、設立当初からメールでの相談が行われています。他の都市では、メールの相談をしていないところが多いといえます。

なぜならメール相談は、相談者の様子がわかりにくく、文字だけによる相談のために、相談者の本当の悩みがわかりにくいとされているからです。また、相談に回答する側からしても、何か見当違いの回答をしたのではないか、何か取り返しのつかないことになっていないかと、不安が生じるためと思われます。

しかし、子どもの立場で考えるとメール相談は、困ったときにいつでも子どもの都合で相談内容を伝えられます。これはとても、大切な相談方法です。相談者の中には、顔を見せたくないという方も一定数います。それでも相談をしたいとき、相談者が救済を求めたときに、子どものためにやれることをやっていくということからすれば、メール相談は欠くことのできない方法です。

そして、何度も繰り返しメールでの応答が行われることで、子どもが救われ立ち直ることは、決して少なくないのです。

また、電話による相談が重要なことは、いうまでもありません。

子どもの言い分や悩みをよく聴くこと、それだけで効果があると感じます。相談員の方々には、大変な業務となっていますが、これからも是非、これまでのような丁寧で熱心な相談活動を、続けてもらいたいと思います。

相談員側の方々が、まず、子どもの叫びや訴えをよく聴くことによって、おのずと解決の方向性に気付きが生まれますし、また、アシストセンターとの信頼関係が深まるものと考えます。

良く聴くことで、子どもの小さな胸に一杯となっていた悩みを大人と共有できる。そして子どもの立場で考え、相談に応じてくれる大人がいることを知る。

相談を続けることで、子ども達は、以前とは比べものにならない前向きな子どもになっていきます。

子どもにとって、よりよい環境が整って明るくなっていきます。

この電話相談については、これからも、電話相談の技術的な向上も含め、大いに続け、発展させて頂きたいと思っています。

3 調整活動を行える権限を生かして頂くこと

アシストセンターの特徴は、大きな権限として調整活動ができることがあげられると思います。

子どもの権利侵害があると思われる事案については、アシストセンターでは相談だけで済ませることなく、積極的に調整活動を行ってきています。

一年間に行われる調整活動は、件数としては格別多いわけではないにしても、一つ一つの調整案件において、救済委員、相談員、調査員がそれぞれの役割を果たして、子どものために調整活動を行ってきています。

子どもたちには、アシストセンターで相談に応じてもらうとともに、本当に必要など

きに相手方との間に入ってもらえる。そして調整活動を行うため、何度も調査員が調整活動を行ってくれる。この安心感は、子どもの人権を考えるうえでとても大切であると思います。

近頃、新聞等では今でも、子どもの自死といった痛ましい報道が行われています。アシストセンターが存在すれば、これらを全て防げるというものでは勿論ありません。

しかし、少なくとも、子どもの悩みをしっかりと聴くことで、こうした痛ましい事案を間違いなく少なくできたこと、また、これからも少なくしていけるということは、断言できるのではないのでしょうか。さらにアシストセンターのように、調整活動の権限を持つ機関だからこそ、被害を少なくしつづけられるということは、間違いのないところと確信をしております。

これからもアシストセンターでは、必要とされれば積極的に調整活動に入って頂き、子どもにとって相談だけでなく、本当に必要な時には調整活動を行い、子どもの真の味方で有り続けて頂きたいと思います。

4 アシストセンターに、これからも期待しています

10年間の活動を終えて、アシストセンターの存在意義は、益々高まってきていると確信をします。これからは、益々、活動領域が増えていくのではないのでしょうか。

アシストセンターでは、これからも、これまでの活動を発展させて頂くとともに、子どもの権利や教育についても、もっと広く、もっと深く、市民や子ども達に知ってもらう活動を進めることも、期待されてきていると思います。

子どもが、互いに子どもの権利を尊重することを知ってもらい、学習をしていくことは必要と思います。なぜ、いじめをしてはいけないか。なぜ、暴力はいけないのかなど、子どもの権利について、子どもにも保護者にもわかりやすい学習の機会を増やしていただく、そして札幌市内の多くの子ども達に、その年代に応じた教え方や学び方を、教材を用意し、わかりやすい授業を行うなどが、これからの課題といえるのではないのでしょうか。

子どもは本来、自ら持っている力があり、自ら前に進めるけれど、時に迷い、後退することもある。それでも子どもの力を信じ、子どものことを考え、一緒に悩み、考え、子どもにとって最善のことを考えていく。

こうしたことを現に行っているアシストセンターが、これから更に、活動を充実させる。こうしたことで、子どもたちのため、新たな活動の歴史を作っていって頂きたいと、アシストセンターのこれからは大いに期待しています。